総合求人情報誌

ルーキー

Rookie

毎週水曜発売
150円

8.16▶8.22
2006.No.32

スキルを活かそう！

ソフトウエア・情報・通信関連特集

自分の力を試そう！

医療・介護関連特集

事務・経理などの内勤事務

オフィスワーク特集

■巻頭記事ページ

Meister
『有限会社 開』
開梨香さん

JOB PROFILE
ビーチスタッフ
奥勇貴さん

■レギュラー求人コーナー

高収入
キャリア＆スキル
沖縄全域
南部・中北部
ナイトスタッフ

採用と人材の
株式会社ラジカル沖縄
www.shigotoarimasu.com

MY TURNING POINT!

No.88

※仕事を探している方、転職を考えている方。このコーナーではそのヒントとなるようなストーリーをお届けしています

『エコツーリズムを通して、地域の人々が豊かになる仕組みづくりをお手伝いしたい。』

インテリア・ディスプレイ会社 代表取締役
↓
有限会社 開 代表取締役

開梨香さん

●プロフィール

本名：比嘉梨香。1959 年那覇市生まれ。琉球大学法文学部社会学科卒業。放送局や企画会社勤務を経て、インテリア会社及び大手ディスプレイ会社の現地法人の代表に。文化施設・商業施設の企画プロデュースを手掛ける。2000 年 2 月、有限会社開を設立。エコツーリズムをはじめとする体験・交流型観光による地域振興のコンサルティング、国際会議・コンベンションの企画運営等の仕事に携わる。

「開（ひらき）です」と差し出された名刺には、開運と書かれた打出の小づちを持ってにっこりと微笑む開さんのイラストが描かれていた。肩書きにはＮＰＯ法人日本エコツーリズム協会理事、沖縄県国土計画審議会審議委員などが並んでいる。思わず「開さんって何をやっているのですか」と聞いてしまったが、そんなぶしつけな質問に対しても、にこやかに応えてくれた。

「沖縄を元気にしたいんです。沖縄が輝き、みんながイキイキと幸せになることなら、ジャンルを問わず挑戦させていただいています」という。

エコツーリズムをライフワークとし、ＮＰＯ法人日本エコツーリズム協会の設立メンバーでもある。沖縄サミット開催時には、小中学生サミット、高校生サミットなどのプレイベントの運営に携わる実績を持つ、敏腕プロデューサーなのだ。

琉球大学在学中、琉球放送のアシスタントディレクターや音楽院・首里での企画・運営などのアルバイトに明け暮れた。中でも放送局のアシスタントディレクター時代は、日々繰り返される仕事の中、厳しい上司のもとで徹底的に鍛えられたという。

「毎日放送される生番組を担当していたときは時間との戦いでした。限られた時間の中で情報を収集し資料をつくる。ただ資料を作るだけでなく、視聴者に喜んでもらうために、分かりやすく資料をまとめる。そんなことを繰り返すうちに、自然と情報収集力や判断力が身についていました。また番組で紹介する人の魅力をどう引き出すかを考えるうちに、人を見る目も養われました。もともと好奇心旺盛なので、人に会ったり、人の話を聞くのが好きなんです。この人のことをもっと知りたい、もっと話を聞きたいと思ったら、県内外問わずに会いに行きました。このときの仕事が縁で、多方面の方々とのおつきあいが広がり、今も続いています」

そしてこのときに培った情報収集力・判断力・人を見る目は、プロデューサーの基本として、今につながっているのだ。

ライフワークになっているエコツーリズムとの出会いは、仕事の一環として訪れた西表島だった。そこには島の自然、芸能、文化をこよなく愛する島の人々がいた。ただ保全だけでなく、これらの資源を生かした観光により地域振興を図ろうと取り組んでいる。エコツーリズムの運動がまさに始まったところだった。

一方、開さんは当時、国内大手のディスプレイ会社・乃村工藝社の現地法人である沖縄ノムラの代表取締役専務として、文化施設づくりに携わっていた。たくさんの人たちの知恵を集めてつくる博物館や資料館が完成するたびに感動を味わうものの、その後の運営からは手が離れることにジレンマを感じていた。

「施設はできてからが勝負。地域の人や訪れる人に活用されてはじめて命が吹き込まれる」と考える開さんは、人や地域づくりに関われるエコツーリズムに、次第にのめりこんでいった。そして２０００年2月、有限会社開を設立した。「運が開くように」と自らを開と名乗ったことが功を奏してか、サミットのプレイベントとして、環境問題について考える「小中学生サミット」の企画・運営に携わることになった。これをきっかけに県や国に事業を次々と受注し、新たな運は開けていく。

「エコツーリズムは地域の宝探しから始まります。先祖から受け継いだ資源を守りつつ、観光資源として磨きをかけていくために地域の人々が主体となって取り組んでいくこと。そのためには地域の人が当たり前と思っているものを掘り起こし、発見する外部の力も必要です。そんな宝探しのお手伝いができればと思っています」

そして今、開さんを中心とするチームが企画した、県発注の離島活性化事業が始動している。その企画内容は、島の歩幅で、島の人が本当にやりたいことを一緒に引き出し、島の暮らしがもっと楽しくなるように、『なんでもお助け隊』を結成して、島々に出動させるというもの。しかもお助け隊は料理人やマーケッターなど、各分野を良く知っているが先生ではない、第一線で活躍する現場のプロだという。机上の論理よりも実践をモットーとする開さんならではの企画である。

「人は机の上で勉強したり聞いたことは忘れるけど、自らが体験したことや発見したことは身につくんです。これはお助け隊だけではなく、仕事すべてのことに言えます。特にプロデューサーという仕事は机上では学べません。雑用にはじまり、雑学を学び、人に会うために遠くでも飛んでいったり、とにかく自身が体験すること。自己投資が大切です」

人と人をマッチングさせながら、島々の活性化を図るという今回のプロジェクトは、開さんにとって新しい挑戦だ。「私の仕事は目的を見定めること。そして、チームが最大限の力を発揮できるように、環境づくりをすること。そのために、みんなのモチベーションを高めたり、島の人々との信頼関係を作ることを大切にします。お客さまに喜ばれお役に立てたときの感動は最高です」

仕事を通じての人材育成の重要さを体験してきている開さんだからこそ、このチームでも新たな感動が生まれることを確信してやまない。

ターニングストーリー

1978 年		大学在学中、落第しないための最低の単位数を取り、最大の休みを利用して、琉球放送でのアシスタントディレクターをはじめ、小劇場「沖縄ジャンジャン」、音楽関連の企画会社にてアルバイトをはじめる（〜 84 年）
1985 年		内装業の株式会社アレックス専務取締役に就く。現場掃除から経理、営業まで何でもこなす（〜 99 年）
1989 年		インテリア業の株式会社オン・エア代表取締役に就く（〜 99 年）
1992 年		ディスプレイ大手企業の現地法人・株式会社沖縄ノムラを立ち上げ、代表取締役専務に就き、県内の文化施設づくりに携わる（〜 99 年）
2000年 2月		有限会社開設立　代表取締役に就く
主な実績		・沖縄県「県立平和祈念資料館基本構想．計画」統括 ・環境庁「西表野生生物保護センター」展示施工統括 ・那覇空港ビルディングコンセッション計画統括 ・サミットプレイベント「小中学生サミット」「高校生サミット」「国際シンポジウム」運営 ・沖縄観光コンベンションビューロー「エコツーリズム推進のためのフィールド調査」 ・外務省主催「ミレニアムフォーラム」運営 ・国際エコツーリズム年記念「エコツーリズム国際大会・沖縄」企画運営 ・西表体験滞在交流事業プロデュース ・南城市体験滞在交流促進事業プロデュース

転職アドバイス

「前向きさとひたむきさを持っている人に魅力を感じます。お客様の喜びを自身の喜びと感じられる人は、どんな苦しいことでも乗り越える力があり、伸びると思っています。人間は独りでは生きていけません。常に誰かに助けてもらって生きているということ、仕事をさせてもらっているという感謝する心を忘れないことも大切です。愚痴、不平不満、泣き言、文句、悪口は解決にはつながりません。いつまでも相手のせいにしていては成長はありえません。環境、状況のせいにしていても何も始まりません。『なんで』と文句を言うのではなく、『どうしたらできるのか』を考えることが自らの成長につながると思います」

お仕事紹介

次世代の子供たちに、活力ある魅力的な沖縄を創っていくために、地域に残されている資源・個性を掘り起こし磨きをかけ、なおかつ守り生かしていくエコツーリズムの精神をモットーに、地域活性化に関するコンサルティング及び調査、情報の提供、体験プログラムの企画などを行っています。またコンベンション&イベントの企画プロデュース、コンサルティング、アフターコンベンションプログラムの作成、運営を行っています。

有限会社開　TEL ／ 098-868-3856
住所／那覇市安謝 2-2-12　ボストンハウス 202